



# 民数記 1-36章

民数記 「主の御名が聖とせられますように / 日毎の糧と与えなほえ」 2014.8.22

出エジプト 2年目	聖別した(民を連れ出し、聖なる民を造る) 罪の赦し(アブラハム)	出エジプト 40年目	誘惑から守らる。悪者さばて、誓いを果たして地に入る。
1:-10:	1:-4: 軍と祭司の登録 2:5:-6: 不信罪、特別普願 女の誓い、ナシリン	20:-27:	20:-21: 民が遊ぶ。敵に勝利 アフリカ、青銅、エミム
11:-19:	2:7:-8: 幕屋聖別、Lセ聖別、幕屋と軍が出発。 2:9:-10: 「...」	28:-36:	28:-29: 誘惑、祭(酒→飯) 主の誓い(約束)
11:-14: コラが遊い、モセが執事	2:15: 特別普願、罪赦し 石の火による	30:-31:	22:-24: バラムが祝福 アサ、Dニコバ
16:-17: コラが遊い、モセが執事	2:18:-19: 相続分、汚罪をおめ アサ、アブラ、アボ、アビ	32:/35:-36:	25:-27: バラムの率、再登録 バラム、アサ、アボ、アビ
		33:	出エジプト→相続地

\*荒野 = 人 × 物 × 地 / 約束 = 人 + 物 + 土地 = 主の誓い、みことば、アブラハム契約

民数記の全体を把握しようとして、概略・分析をしました。大きく2つに分かれています。エジプトから出てきた60万人がどのように導かれたのか。そして、急に40年経ちました。40年目、この間は38年です。20章の最初にミリアムが死ぬところは、40年目です。40年目に、これからカナンに入っていく新しくされた60万人の民は、どのように逆らってしまったのかということが書かれている2つの大きな段落になります。

それぞれが2つずつに分かれています。4つの段落で構成され、それぞれが、また4つにわかれますから、こんな感じです。長いですね。36章ありますから、よく見て、比喩ながら見なくてはならないものです。

誓い、請願を果たすこと、清められること、復讐、バラムとバラクの話も特徴があります。そして、そのように分けてきましたが、この4つがどういう流れ、どういう話なのかということなんです。

最初に気がついたところは、バラムのところ、新約聖書で何度か引用されますけれど、偽りの預言者、にせ預言者が誘惑するけれども、その誘惑から守られるということが、ここのテーマであろうと…。ピネハスのところもそうですね。結局、女を送って誘惑してくるということですが、その段落は、主の祈りの6番目の課題です。「私たちを試みに会わせないで、悪者からお救いください。」誘惑から守られる、サタンから守られるということなんです。

ちょうど、これが40年目の最初の事件として記録されているところです。イエス様がバプテスマを受けたあと、40日間荒野に退いた。そして、荒野から戻ってきたところ、

民数記 「主の御名が聖とされますように / 毎日の糧を与えなさい」 2014.8.22

エジプト 2年目	聖別した(民を連れ出し、聖なる民を生んだ) 罪の赦しのバプテスマ	エジプト 40年目	誘惑から守らる。悪者から救う。 誓いが果たして、地に入る。
1.-10: 御国	1.-4: 軍と祭司の記録 数.5.-6: 不信罪、特別警備 女の輩い +シムラ	20.-27: 悪者から救う	20.-21: 民が渡り、敵に勝利 マリバ、青銅、イエリム 22.-22:40 バラムvs主の使い DTC:ヒバ
11.-19: 罪を赦す	数.7.-8: 幕屋聖別、レヒ聖別、幕屋と軍が出発。 数.15: 特別警備、罪赦し。 DTC:火にまき。 16.-17: コフが遠い、モーセが執り成す、相統分、汚罪をよめ DTC:アセバ、DTC:杖、DTC:LE	28.-36: 御旨 云々(約束された)	22:41-24: バラムが祝福 DTC:ヒバ 25.-27: 再記録 DTC:ヒバ、DTC:ヒバ 30.-31: 誓願、復讐 女、DTC:ヒバ、DTC:ヒバ 32: 誓願、復讐 DTC:ヒバ、DTC:ヒバ 33: 出エジプト→相統地

\* 荒野 = X人・X物・X地 / 約束 = 人 + 物 + 土地 = 主の誓いのみこす。アブラハム契約。

40日の終わりのところで、サタンが現れて誘惑する。その誘惑から守られたという話があるのと同様に、この40年目のところで、悪から救われた、誘惑から神様の不思議な導きによって救われているというところがこの段落のテーマでしょうということです。

そう思って11章からのところを見ると、罪の赦し、モーセの執り成し、罪のきよめ、汚れのきよめというところが何度も出てきます。これは、「罪の赦し」の段落だということができるでしょう。

じゃあ、主の祈りの5番目、6番目があるなら、ほかの課題が、残りの段落にも枠組みとなっているのかなということで、捉え直してみると、最初の段落の、数えて、幕屋を聖別して、幕屋と軍が出発しますというところは、何だろうということですが、

ここは、神様がエジプトから民を連れ出して、聖なる民を生みました。そして、神様が共にいてくださるという神様の家に住まわせている。これが、「御国が来た」新しい国が来ました、新しい国が生まれました、作られました。罪が赦されて、そこから救い出されて、天の御国が来たというのが、最初の段落。

最後の28章からの段落は、「御心が行われる」。これが、御心が行われるという段落であろうということは、特に誓いが果たされるということです。誓いが果たされて、完全に報いが与えられる。そのことが、過越から仮庵の祭り、7日目の祭りも含めて生贄が捧げられる感謝の生贄です。感謝の生贄というのが御心ですね。神様に捧げられることを喜んでいる生贄を捧げ、エジプトから相統地まで連れ出されたという神様の誓い、アブラハムの契約の誓いが果たされました。主の誓いは、アブラハムの契約の約束は、民が与えられて、土地が与えられて、祝福されるというその誓いが果たされましたということです。

全体を見たらば、「御国が来ますように」「御心が天で行われるように、新しい地で行われる」。そして、「罪を赦してください」「悪から守ってください」ということで

あろうと。そうすると、最初の「御名があがめられますように」と、「日毎の糧を与え

民数記 「主の御名が聖とされますように / 日毎の糧を与えたい」 2014.8.22

出エジプト 2年目	聖別した(民を逐ひ出し、聖なる民を築く) 罪の赦し(バプティスマ)	出エジプト 40年目	32歳から57歳まで、悪者(さばく)を 誓いと果して地に入れる。
1:-10:	1:-4: 5:-6: 「...」	20:-27:	20:-21: 22:-22:40
御国	軍と祭司を記録 不信罪、特別誓願 の誓い +シム	悪者から救う	民が逆う、敵に勝利 メリバ、青銅、エヒム
	7:-8: 幕屋聖別、LE聖別、幕屋と軍が出発。		22:41-24: 25:-27: 聖、LE バラムが祝福、再記録 バラムの呪い、シム (2人3人4人 復活)
11:-19:	11:-14: コアが逆い、モーセが執事、特別誓願、罪を赦し。 バプティスマ、Xに2人。	28:-36:	28:-29: 30:-31: 誓願、復讐、 物、シム、分給、LE
罪を赦す。	16:-17: コアが逆い、モーセが執事、相続分、汚罪をおかす。 バプティスマ、バプティスマ、バプティスマ、LE	28:-29:	32:/35:-36: 33: 誓願、復讐、 バラムが逆い、バプティスマ、バプティスマ、バプティスマ、LE
			出エジプト → 相続地。

\* 荒野 = X × 物 × 地 / 約束 = 人 + 物 + 土地 = 主の誓い、みに3. アブラハム契約

てください」という段落はないのかということになります。

それこそ、この民数記のテーマである。主の御名が聖とされる。この1章から36章までの主の導きは民を聖別する、主が命である。その命の源である。主が約束、誓いを果たしてくださる神様であるということが、この民数記であらわされている。

20章のモーセがメリバの水のところで、主に怒られました。それで、入れませんと言われたところで、「あなたは、私が聖であることをあらわさなかった。」と言われていきます。絶対に誓いを果たして命を与えるんだということが、主の御名が聖とされる歴史として民数記に記録されている。その40年の荒野の間、神様はパンを与え、水を与えて、決して着物も擦り切れることがなかった「日毎の糧を与えてくださった」ということがこの民数記の歴史全体に言われていることですので、この「民数記」という書物は、「主の祈り」でイエス様が教えてくださったその祈りの課題に答えている。

これが、民が求めるべきものを、神様は必ず与えてくださっているというその荒野、人もいない、物もない、土地もない、その荒野の状態から約束の地に導いてくださる神様が与えてくださったその主の祈りと民数記が並行しているような構造になっているというのが、全体の分析の結果です。